

消 防 年 報

平 成 2 1 年 版

佐 渡 市 消 防 本 部

(平 成 2 2 年 発 行)

は し が き

この年報は、佐渡市消防本部の消防現勢と、平成21年の業務実績を収録し、消防行政の合理的な運営と消防力の充実強化に資することを目的として作成しました。

また、管内における災害実態や消防及び救急活動の現状など広く一般に紹介し、消防行政に対する理解と協力をお願いするとともに住民の防火思想の高揚をはかるものであります。

平成22年9月

佐渡市消防本部

目 次

1 . は し が き

2 . 佐渡市消防本部の沿革	佐渡市の位置及び地勢	1
	管内位置図	2
	歴代消防長・署長	3
	佐渡市消防の沿革	5

1 . 総務編

1 - 1	佐渡市消防本部機構図	17
1 - 2	佐渡市消防本部事務分掌	18
1 - 3	消防庁舎の所在地	21
1 - 4	消防職員階級別配置状況	25
1 - 5	消防職員階級別年齢調	25
1 - 6	消防職員在職年数調	26
1 - 7	消防職員の研修・教育等実施状況	26
1 - 8	消防職員資格免許等一覧表	27
1 - 9	平成 2 1 年度 主要事業	28
1 - 10	年度別一般会計予算・決算	31

1 - 11	消防費の人口・世帯当たりの歳出額	31
1 - 12	消防関係表彰状況	32
1 - 13	消防相互応援協定	33

2 . 警防編

2 - 1	消防通信施設状況	34
2 - 2	無線電話機設置状況	34
2 - 3	水利の状況	35
2 - 4	消防用車両等の配置状況	36
2 - 5	消防用車両等の状況	37
2 - 6	特殊機械器具等現有状況	42
2 - 7	気象状況	
(1)	気温	46
(2)	湿度	46
(3)	雨量	47
(4)	風向・風速	47
(5)	降雪・積雪	48
(6)	警報・注意報発表状況	48

3 . 火災編

3 - 1	平成 2 1 年 月別火災発生状況	49
3 - 2	年別・地区別・種別火災発生状況	50
3 - 3	年別火災原因調	52
3 - 4	平成 2 1 年火災発生時刻と覚知方法	53
3 - 5	平成 2 1 年消防機関の出動状況	54
3 - 6	過去の地区別火災発生状況	55
3 - 7	過去の曜日別火災発生状況	55
3 - 8	過去における主な火災記録	56

4 . 救急・救助編

4 - 1	年別・事故別救急出場状況	57
4 - 2	地区・事故別救急出場状況	58
4 - 3	時間帯・事故別搬送人員調	59
4 - 4	月・事故別搬送人員調	60
4 - 5	曜日・事故別搬送人員調	61
4 - 6	症状別搬送人員調	61
4 - 7	医療機関別搬送人員調	62
4 - 8	年齢・事故別搬送人員調	63

4 - 9	救急隊員の行った応急処置状況調	63
4 - 10	現場到着所要時間別出場件数調	64
4 - 11	普通救命講習等実施状況	64
4 - 12	救助活動状況	65
4 - 13	消防救助技術大会出場状況	66

5 . 予防・危険物編

5 - 1	防火対象物過去 5 年間の推移	67
5 - 2	業態別中高層防火対象物数	68
5 - 3	防火対象物署別一覧表	69
5 - 4	防火対象物別消防用設備等設置状況	70
5 - 5	防火管理者を必要とする防火対象物及び 選任状況 (甲種・乙種防火対象物)	71
5 - 6	火災予防条例による届出状況	72
5 - 7	建築確認申請同意事務処理状況	73
5 - 8	建築確認申請月別処理状況	73
5 - 9	火災予防査察実施状況	74
5 - 10	予防関係事務処理状況	75
5 - 11	防火対象物別消防訓練指導状況	76

5 - 12	広報活動状況	77
5 - 13	危険物施設設置の状況	78
5 - 14	危険物施設の推移	79
5 - 15	製造所等の地区別危険物指定数量倍数	80
5 - 16	月別危険物施設事務処理状況	81
5 - 17	危険物規制事務手数料	82
5 - 18	危険物製造所等の立入検査状況	83
5 - 19	危険物製造所等の申請件数	84

6 . 消防団編

	佐渡市 4 消防団合併の経過	85
6 - 1	佐渡市消防団組織図	86
	(1) 中央方面隊	87
	(2) 両津方面隊	88
	(3) 相川方面隊	89
	(4) 南佐渡方面隊	90
6 - 2	歴代消防団長・副団長	91
6 - 3	消防団員職業別人員調	95
6 - 4	消防団員勤続年数調	95

6 - 5	消防団員年齢別人員調	95
6 - 6	消防団員報酬・費用弁償・機械器具管理委託費 . . .	96
6 - 7	消防団員の消防学校教育受講状況	96
6 - 8	消防団員の退職状況	97
6 - 9	消防団員の新任状況	97
6 - 10	平成 2 1 年度消防団主要事業	98

佐渡市の位置及び地勢

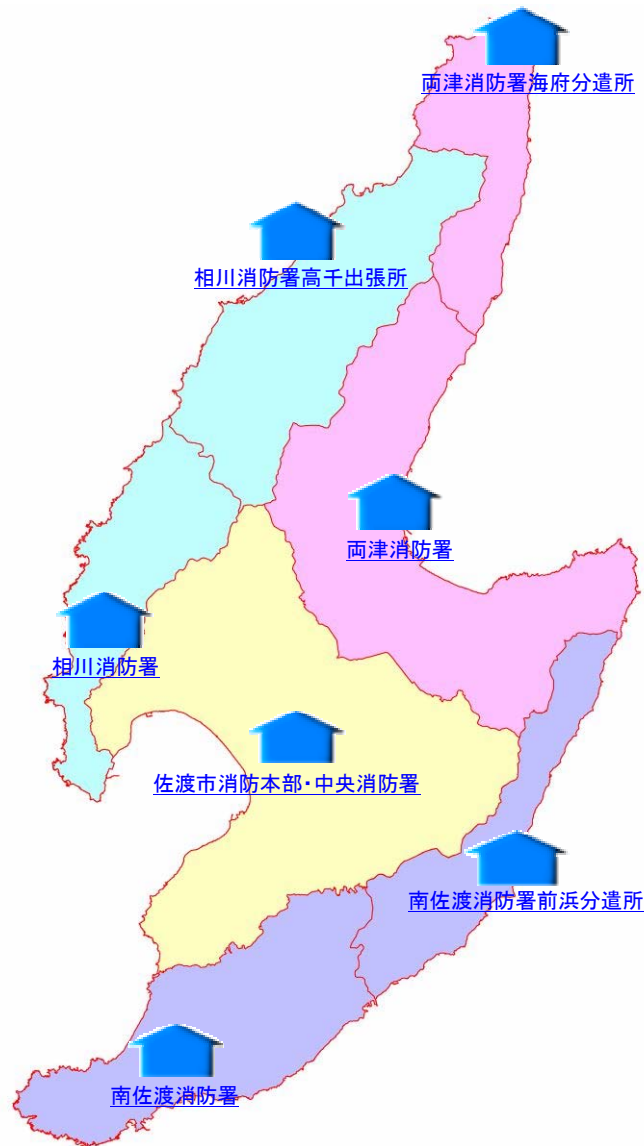
本市は、日本海の中央に位置する佐渡島であり、面積855.27km²、周囲280.4kmに及ぶ海岸線は変化に富み、美しい景観を形成している。島の中央部を国府川が流れ、この流域に開けた穀倉地帯国中平野を挟んで、北に大佐渡山地、南に小佐渡丘陵を擁し、島の大部分が国定公園や県立自然公園に指定され、平成20年9月に10羽の試験放鳥を実施した国際保護鳥トキが生息していたように、豊で美しい自然環境に恵まれている。

気候は海洋性で、四季の変化に富み、夏は高温多湿であるが、冬は日本海を北上する対馬暖流の影響をうけ雪も少なく、温暖な特性があり、新潟本土と比べ気温の平年値13.6℃と比較的高く、年間降水量も1,600～1,700mmで少ない。

佐渡市の人口は、平成16年3月1日発足時70,015人、平成22年4月1日現在64,268人で少子高齢化・過疎化が進んでいる。

昭和28年の町村合併促進法により、1市7町2村となり、さらに21世紀を迎え地方分権時代の到来の中、平成16年3月1日に1島1市の市町村合併が行われ『佐渡市』が誕生し現在に至っています。

管内配置図



佐渡市消防本部エンブレム



佐渡市救助隊エンブレム

歴代消防長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	加藤 侑作	自平成16年3月1日 至平成18年3月31日	
二代	渡辺与四夫	自平成18年4月1日 至平成20年3月31日	
三代	加藤 貴一	自平成20年4月1日 至平成22年3月31日	
四代	金子 浩三	自平成22年4月1日 至	

歴代中央消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	中川 茂	自平成16年3月1日 至平成17年3月31日	
二代	加藤 貴一	自平成17年4月1日 至平成20年3月31日	
三代	安達 吉行	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	
四代	金子 浩三	自平成21年4月1日 至平成22年3月31日	
五代	中川 義弘	自平成22年4月1日 至	

歴代両津消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	加門 俊行	自平成16年3月1日 至平成18年3月31日	
二代	飯田 忠一	自平成18年4月1日 至平成21年3月31日	
三代	佐藤 恭太郎	自平成21年4月1日 至	

歴代相川消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	服部 恵男	自平成16年3月1日 至平成18年3月31日	
二代	山本 一夫	自平成18年4月1日 至平成22年3月31日	
三代	千崎 一徳	自平成22年4月1日 至	

歴代南佐渡消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	磯部敏晴	自平成16年3月1日 至平成18年3月31日	
二代	加門俊行	自平成18年4月1日 至平成20年3月31日	
三代	斎藤昭博	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	
四代	高津十三雄	自平成21年4月1日 至	

佐渡市消防の沿革

平成16年

- 3月 島内10ヶ市町村合併により、佐渡市消防本部発足
1本部・4署・2支所・1出張所 署員204人
消防本部・中央消防署 52人（本部専任2人・主任以上本部兼任）
両津消防署 38人
相川消防署 26人
南佐渡消防署 40人
中央消防署北支所 18人
中央消防署南支所 18人
相川消防署高千出張所 12人
- 4月 消防職員7人採用
- 9月 緊急広報連絡車購入 消防本部中央署に配備
防火水槽蓋附設工事实施（四日町、静平、畑野、八幡新町地区）
- 10月 新潟県中越大震災被災地隊員派遣（新潟県広域消防相互応援協定）
一次派遣隊 救急隊2隊6名
二次派遣隊 救急隊2隊6名
三次派遣隊 救急隊2隊6名
- 11月 40m³型耐震性貯水槽設置
（高千、小野見、上矢馳、大和、三宮、大橋、旭地内）
- 12月 40m³型耐震性貯水槽設置（加茂歌代、黒姫地内）
小型動力ポンプB-3級配備
（両津消防団 岩首分団第4部、吉井分団第5部、河崎第2分団第3部）
小型動力ポンプ軽積載車配備
（中央消防団 第1分団第5部、第2分団第4部、第4分団第3部）

平成17年

- 1月 40m³型耐震性貯水槽設置（吉井本郷地内）
- 2月 小型動力ポンプ付水槽車を相川消防署に配備
- 4月 消防職員1人採用
小型動力ポンプB-3級配備
（両津消防団加茂第3分団第1部、河崎第1分団第5部、河崎第2分団第3部）

6月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置（椿尾地内）
7月	救助工作車Ⅱ型購入 両津消防署に配備 40 m ³ 型耐震性貯水槽設置 （鷺崎地内、泉地内、貝塚地内、丸山地内、赤泊地内）
8月	消防ポンプ自動車CD-I配備 （中央消防団第1分団第1部、第4分団第1部） 40 m ³ 型耐震性貯水槽設置 （吾潟藤巻地内、吾潟田ノ浦地内、羽茂大橋地内、八幡町地内）
9月	消防防災用自動車配備 （中央消防団第1分団第2部、第2分団第5部、第6分団第5部） 消防緊急広報連絡車購入 消防本部中央署に配備
10月	高規格救急自動車購入 両津消防署に配備
平成18年	
2月	消防ポンプ付水槽車購入 消防本部中央署に配備
3月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置 （市野沢地内、新穂大野地内、相川坂下町、羽茂上山田） 60 m ³ 型耐震性貯水槽設置（千種地内）
4月	消防職員7人採用
6月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置（達者地内）
10月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置 （東大通地内、長石地内、上横山地内）
11月	小型動力ポンプ付積載車購入 消防本部中央署、海府分遣所、前浜分遣所に配備 小型動力ポンプ付積載車配備 （中央消防団第4分団第2部、中央消防団第6分団第6部、相川消防団第5分団第2部）
12月	救急自動車2B型購入 海府分遣所に配備
12月	小型動力ポンプ付水槽車購入 海府分遣所、前浜分遣所に配備
平成19年	
1月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置（上横山地内）
4月	消防職員4人採用
7月	新潟県中越沖地震被災地隊員派遣（新潟県広域消防相互応援協定） 救助隊1隊5名 消火隊1隊5名 救急隊1隊3名 支援隊1隊2名

8月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置（長江地内）
9月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置（小木地内、新穂地内）
11月	40 m ³ 、100 m ³ 型耐震性貯水槽設置（八幡地内）
12月	高規格救急自動車（消防緊急援助隊設備整備費補助事業）消防本部中央署に配備 小型動力ポンプ付軽積載車配備（日本損害保険協会寄贈） （両津消防団河崎第2分団第4部）
平成20年	
1月	消防ポンプ自動車CD-I配備（南佐渡消防団第1分団3部） 小型動力ポンプ軽積載車配備 （両津消防団河崎第1分団第1部、相川消防団第2分団5部、第4分団2部）
2月	消防団多機能型車両（財団法人日本消防協会寄贈）中央消防団本部配備
9月	救急自動車2B型購入 前浜分遣所に配備
10月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置（畑野地内、金井新保地内、羽茂本郷地内）
11月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置（平松地内） 両津消防団河崎第1分団河崎・真木分団機械器具置場新築 小型動力ポンプ軽積載車配備 （両津消防団河崎第1分団第5部、相川消防団第4分団3部）
12月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置（住吉地内） 相川消防団第4分団石花・後尾分団機械器具置場新築
平成21年	
8月	中央消防署北支所・南支所閉所
9月	消防本部新庁舎・防災センター竣工 40 m ³ 型耐震性貯水槽設置（三川地内） 小型動力ポンプ軽積載車購入 相川消防署に配備
10月	40 m ³ 型耐震性貯水槽設置（千種地内、窪田地内、大和地内） 小型動力ポンプ軽積載車配備（相川消防団第4分団9部）
11月	照明車購入 消防本部・中央消防署に配備 小型動力ポンプ軽積載車配備（両津消防団加茂第2分団第2部）
平成22年	
1月	災害対応特殊消防ポンプ自動車CD-I購入 相川消防署に配備 小型動力ポンプ軽積載車配備（両津消防団加茂第1分団第2部）
4月	消防職員2人採用

合併前の各消防本部の沿革

佐渡消防本部

昭和46年	
4月	佐渡消防事務組合設立（佐和田町・金井町・畑野町・真野町・新穂村） 消防本部・消防署発足 12人で業務開始
6月	消防職員1人採用（女性）
8月	消防職員10人採用
9月	消防本部、本署新庁舎建設はじまる
昭和47年	
3月	消防職員32人採用
3月	消防本部、本署の新庁舎3月10日竣工移転
4月	消防職員1人採用
8月	消防職員15人採用
8月	消防署北・南支所新庁舎8月10日竣工移転
昭和50年	
4月	消防職員1人採用
昭和51年	
9月	屈折はしご付消防ポンプ自動車16台級購入
昭和53年	
4月	消防業務の執行体制を強化するため署に課制を敷く
昭和55年	
4月	消防職員3人採用
昭和56年	
4月	消防職員3人採用
昭和58年	
4月	消防職員5人採用
4月	救助隊発足 隊員（兼務） 10人
12月	認定工場竣工
昭和59年	
9月	特別救助隊員4人増員（兼務）

昭和60年	
4月	消防職員1人採用 特別救助隊員7人増員（兼務）
昭和62年	
4月	特別救助隊員1人増員（兼務）
昭和63年	
4月	特別救助隊員1人増員（兼務）
平成2年	
4月	特別救助隊員2人増員（兼務）
平成3年	
4月	消防職員2人採用 特別救助隊員2人増員（兼務）
平成4年	
4月	消防職員2人採用
平成5年	
2月	救助工作車Ⅱ型購入
4月	消防職員7人採用
平成6年	
4月	消防職員7人採用
平成7年	
4月	消防職員5人採用
平成8年	
4月	消防職員5人採用
平成10年	
3月	30ℓ級はしご付消防ポンプ自動車購入配備
4月	消防職員2人採用
平成11年	
3月	畑野町松ヶ崎地区緊急情報システム竣工
4月	消防職員4人採用
11月	松ヶ崎地区緊急情報システムいこいの村佐渡増設工事竣工
平成12年	
4月	消防職員4人採用 救助隊員3人増員（兼務）

平成13年	
4月	消防職員4人採用
平成14年	
4月	消防職員5人採用
平成15年	
3月	高規格救急自動車購入配備
4月	消防職員1人採用
平成16年	
1月	消防職員1人採用
2月	佐渡消防事務組合消防団解団式 佐渡市中央消防団結団式
3月1日	合併により、佐渡市消防本部・中央消防署となる

両津市消防本部

昭和29年	
11月	両津市消防本部・消防署発足 (11月3日)
昭和30年	
1月	合併に伴い、町村消防団を解き、両津市消防団と改める
昭和31年	
7月	消防庁舎完成 消防職員2人採用
昭和32年	
4月	消防職員1人採用
昭和35年	
	消防職員2人採用
昭和36年	
	消防職員4人採用
昭和37年	
	消防職員4人採用
昭和40年	
	県から防災工作車譲り受け配備

昭和44年	化学消防車購入配備 市立両津病院から救急自動車に移管、救急業務開始 消防職員1人採用
昭和46年	消防職員1人採用
昭和47年	消防署員2人採用
昭和48年	消防署員1人採用
昭和50年	消防職員1人採用
昭和53年 10月	消防職員2人採用
昭和54年 11月	消防職員1人採用
昭和55年 12月	消防職員1人採用
昭和58年 4月	消防職員1人採用
昭和60年 4月	消防庁舎・訓練等・防災資材倉庫完成 業務開始 化学消防ポンプ自動車（I型・A2級）更新
昭和61年	24 ^{リットル} 級はしご付消防ポンプ自動車購入配備
昭和62年	救助工作車購入配備
昭和63年 4月	消防職員1人採用
平成元年 4月	消防職員1人採用
平成2年 4月	消防職員3人採用

平成 3 年			
4 月	消防職員 5 人採用		
平成 4 年			
4 月	消防職員 1 人採用		
平成 6 年			
	救助訓練用補助塔完成		
4 月	消防職員 1 人採用		
平成 7 年			
4 月	消防職員 2 人採用		
平成 8 年			
4 月	消防職員 1 人採用		
平成 9 年			
4 月	消防職員 1 人採用		
平成 1 1 年			
4 月	消防職員 1 人採用		
平成 1 2 年			
	化学消防ポンプ自動車 I 型更新		
4 月	消防職員 1 人採用		
平成 1 3 年			
	水難救助隊発足	消防職員条例定数を 1 人減員	3 8 人
平成 1 4 年			
4 月	消防職員 1 人採用		
平成 1 5 年			
4 月	消防職員 2 人採用		
平成 1 6 年			
3 月 1 日	合併により、佐渡市両津消防署となる		

相川町消防本部

昭和41年	
4月	
4月	相川町消防本部設置 消防署員9人
11月	高千出張所設置 消防署員2人
11月	消防職員4人採用
昭和42年	
4月	相川町消防署設置
9月	消防職員1人採用
昭和43年	
1月	消防職員1人採用
昭和44年	
7月	消防職員1人採用
9月	消防職員1人採用
昭和45年	
3月	消防職員1人採用
昭和46年	
6月	相川町消防署、行政指定受ける
昭和47年	
1月	救急業務開始
6月	消防職員2人採用
昭和48年	
4月	消防職員2人採用 本署 17人 出張所 5人
昭和50年	
9月	消防職員1人採用 本署 17人 出張所 6人
昭和51年	
4月	消防職員1人採用
9月	消防職員1人採用
昭和53年	
7月	消防庁舎完成

昭和57年	
1月	消防職員1人採用
昭和58年	
4月	行政職より1人公安職へ
10月	高千出張所庁舎完成
昭和59年	
4月	消防職員1人採用
昭和62年	
9月	行政職へ1人 消防職員3人採用
平成元年	
4月	消防職員1人採用
平成2年	
1月	救助工作車購入配備
4月	消防職員3人採用
平成3年	
3月	消防緊急情報システム指令装置購入
4月	消防職員3人採用
	本部 21人 出張所 12人
8月	高千出張所救急車配備、救急業務開始
平成4年	
4月	消防職員2人採用
平成5年	
4月	消防職員1人採用
平成6年	
4月	消防職員5人採用
	本部 22人 出張所 14人
平成7年	
4月	消防職員2人採用
平成9年	
4月	消防職員2人採用
平成10年	
4月	消防職員2人採用
平成14年	
4月	消防職員1人採用

平成15年	
4月	消防職員1人採用
平成16年	
3月1日	合併により、佐渡市相川消防署となる

南佐渡消防本部

昭和55年	
4月	南佐渡消防事務組合発足 職員11人
9月	消防庁舎完成 (本署・小木分遣所・赤泊分遣所) 消防職員9人採用
10月	消防署業務開始 (小木・赤泊分遣所 1人勤務)
昭和56年	
4月	消防職員7人採用
昭和58年	
4月	消防職員4人採用
昭和59年	
4月	消防職員4人採用
昭和61年	
4月	消防職員4人採用
4月	救助隊発足 (兼務) 16人
平成4年	
4月	消防職員2人採用
平成5年	
4月	消防職員1人採用
6月	水難救助隊発足
平成6年	
4月	1本部・1署・2分遣所を1本部・1署・1救急隊詰所に統廃合する
平成8年	
4月	消防職員2人採用
平成11年	
12月	赤泊救急隊詰所閉所、1本部・1署になる

平成13年	
4月	消防職員1人採用
平成14年	
1月	消防職員1人採用
3月	羽茂町消防団・小木町消防団・赤泊村消防団を解散
4月	南佐渡消防団発足
平成16年	
2月	南佐渡消防事務組合解散
3月1日	合併により、佐渡市南佐渡消防署となる

消 防 年 報

郵便番号 952-1311

編集発行 新潟県佐渡市八幡58番地

佐渡市消防本部

TEL 0259-51-0119

FAX 0259-52-5651

E-mail: sf-somu@city.sado.niigata.jp